

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

“かまどのある住まい”

豊島区内初！古墳時代の竪穴住居址



長崎一丁目周辺遺跡で“^{かまど}竈をもつ古墳時代の^{たてあな}竪穴住居址”が発見されました。長崎一丁目周辺遺跡は先日のロビー展示で紹介した「谷端川流域にひそむ遺跡」のひとつです。遺跡は椎名町駅に向かって南向きに長く延びる丘陵の先端付近一帯に広がっています。竪穴住居址が発見された「福嶋家地区」は長崎神社の北側、丘陵上の平坦な場所に位置します。

今回の調査は遺跡の遺存状況を確認するための試掘調査として始まりました。40坪ほどの敷

地に3つの試掘坑を設定し、遺物包含層や遺構の有無を確認しました。当初の予想通り、江戸時代の耕作層および畝跡が全面に広がっており、地表下約50cmでソフトローム層を確認しました。通常の作業を粛々と進め試掘調査を締めくくる心づもりでしたが、調査区東南隅に設定したCトレンチで粘土・焼土・土師器を含む遺構が見つかり、状況は一変しました。

びっしりと詰まった焼土と粘土の存在、尻尾がスローブ状に立ちあがるオタマジャクシのよう

な形は、それが“かまど”の一部であることをありありと物語ります。ただ豊島区では古墳時代の資料はほとんど知られていません。駒込古墳を指定しているものの、これまで1つの遺構も見つかっていません。大きな期待を抱きつつも半信半疑でトレンチを拡張しました。果たして四角いプランが現れ、床面付近からは土師器の坏や須恵器の甕が出土します。今や堅穴住居であることは疑



いの余地がありません。事業主のご厚意で住居全体の調査を行う運びとなり、再度調査区を拡張しました。

結果、現れたのは一辺2mばかりの小さな竈付き堅穴住居址です。竈の中からは土師器の甕、床面

からは土師器の坏と須恵器の大甕が破片で見つかりました。土器は古墳時代後期のおにたか鬼高式とみられ、およそ7世紀初め頃と考えるとよさそうです。



これから周辺の歴史的環境や集落の広がり、当時の暮らしの様子などを調べ、報告を作成していきます。(宮里 修)



写真 左:最初の拡張で確認した住居址、右上:見学する中学生、右下:小さな住居で作業中

平成20年度事業報告・会計収支報告

平成19年10月1日から平成20年9月30日までの事業と、これに伴う会計収支をご報告します。発掘調査では、区内20カ所で埋蔵文化財の試掘・確認・本調査を実施しました。これにより、染井遺跡や巣鴨遺跡では新しい事実が確認され、地域の歴史を考える上で重要な成果を得ることができました。報告書作成につきましては、『巣鴨町XII』（第1分冊）が刊行されています。今年度において最も成果があったのが普及啓発事業です。染井遺跡駒込四丁目三菱地所マンション地区では、調査期間中に近隣に住む皆様を対象とした現地見学会を行い、大勢の方に訪れていただきました。また人材育成事業としましては、夏休み期間に「レッツトライ考古学」を実施しました。小学生および保護者を対象として、染井遺跡旧興銀ひろば整備地区において発掘体験と出土した遺物の洗浄・接合を体験学習することにより、考古学に対する興味を引き出すことができました。

平成21年度の事業も、文化財の保護・普及啓発活動等に力を入れてまいります。

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施予定場所	従事者の 予定延人数	受益対象者の範囲 および予定人数	支出見込み額 (千円)
発掘調査	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査	随時	豊島区内	108人	豊島区民 不特定多数	54,541
整理作業	発掘調査の記録・出土遺物の整理作業	随時	豊島区内	50人	豊島区民 不特定多数	20,779
報告書作成	埋蔵文化財発掘調査報告書の作成・頒布	随時	豊島区内	28人	豊島区民 不特定多数	299
普及啓発	豊島区役所ロビーでのパネル展示、連絡誌「つたのは通信」の発行、調査結果の地域誌への掲載、文化財講座・遺跡見学会の実施等	随時	豊島区役所等	62人	豊島区民 不特定多数	399
人材育成	体験学習等の実施を通して埋蔵文化財保護事業の次代を担う人材を育成	随時	豊島区内	30人	豊島区在住・ 在学・在勤者	449

科 目	金	額
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
入会金収入	22,000	
会費収入	2,000	
賛助会費収入	21,000	45,000
2 事業収入		
発掘調査事業	76,819,021	
整理調査事業	549,045	
報告書作成事業	287,175	
普及啓発事業	290,163	
人材育成	193,410	78,138,814
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入	0	
民間助成金収入	0	0
4 寄付金収入	0	0
5 その他収入		
利息収入	23,906	
任意団体からの繰入金	0	23,906
当期収入合計(A)		78,207,720
収入合計(A)		78,207,720
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 発掘調査事業費		
賃金	9,206,134	
需用費	97,080	
土工事・作業委託費	58,643,752	
測量委託費	747,600	
通信運搬費	2,310	
事業者返還金支出費	708,967	69,405,843
(2) 整理調査事業費		
賃金	2,242,432	
整理委託費	2,572,500	
需用費	2,121	
通信運搬費	420	4,817,473
(3) 報告書作成費	287,175	287,175
(4) 普及啓発事業費	290,163	290,163
(5) 人材育成	193,410	193,410
2 管理費		
事務局人件費	1,492,794	
福利厚生費	542,420	
什器備品費	0	
事務所維持管理費	92,000	
事務所経費	336,994	
通信費	9,038	
光熱水費	0	
中小企業退職金共済積立金	195,000	
租税公課	167,700	
その他雑費	62,012	
車両費	246,792	3,144,750
3 予備費		
会員用通信運搬費		7,890
当期支出合計(B)		78,146,704
当期収支差額(A)－(B)		61,016
前期繰越収支差額(C)		63,445
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)		124,461

「谷端川にひそむ遺跡」展示を終えて

去る 10 月 27 日～ 11 月 7 日、豊島区役所ロビーにて毎年恒例となりました「豊島の遺跡 2008」展を実施しました。旧石器時代から江戸時代まで幅広く遺跡を取り上げ、なかでも、日本考古学史上著名な「氷川神社裏貝塚」(池袋貝塚)を区民の皆様にご紹介できたことは、非常に意義のある展示であったと思います。



学習院大学周辺遺跡

(豊島区 No. 3 遺跡)

～ 豊島区有数の旧石器時代遺跡 ～

学習院大学周辺遺跡は目白一・二丁目に展開する、文字通り学習院大学のキャンパスを包み込む範囲に存在が推定される遺跡です。この遺跡の存在は、1905（明治38）年ごろ、学習院建設予定地付近の切り通しで縄文土器が発見されたことで明らかとなりました。発見者の鈴木辰造氏は「黒土と赤土との界目近き所」（原文ママ）より縄文土器を発見したものと、当時の専門誌『考古界』（現在の『考古学雑誌』）にその報告を寄せています。この縄文土器がどのようなものだったのか不明ですが、赤土が関東ローム層だとすると、あるいは縄文土器の中でも比較的古い時期のものであった可能性があります。ちなみに2000年に豊島区教育委員会が行なった発掘調査では、鈴木氏の発見地点と異なるものの、縄文早期の土器と包含層が確認されています。

鈴木氏の発見から間もなく学習院の建設が行なわれ、その後しばらく、この遺跡に関する記事はほとんど見当たりません。あるいは、この開発によって遺跡が失われたと思われましたが、のちに1980年、学習院大学考古会の広瀬雄一氏によって、学習院構内の建設現場で発見された黒曜石製の石器が紹介されました。ここで広瀬氏は、旧石器時代の遺跡が存在する可能性を述べています。

学習院大学周辺遺跡で旧石器時代の明らかな痕跡が発見されたのは、実に2008年、つい最近のことです。

学習院大学自然科学研究棟の建設に伴う発掘調査によって、関東ローム（立川ローム層）の、およそ2万年前の土層から、石器とともに当時の人々が生活していた痕跡「礫群（焼けた礫の集中）」が発見されました。豊島区内では、旧石器時代の礫群や石器の発見は数少なく、学習院大学周辺遺跡にこうした貴重な遺跡が今も地中に埋もれているものと思われます。（宮川和也）

（参考文献：鈴木辰造 1905「学習院建設地附近より貝塚土器破片発見」『考古界』4-12

豊島区教育委員会 2002『千登世橋 I』

広瀬雄一 1980「学習院大学構内採集の石器」考古学の世界 1、学習院大学考古会）



学習院大学自然科学研究棟地点の発掘調査の様子。南は神田川へ向けて急な崖になっています。

【編集後記】

2009年です。昨年は旧石器や古代の遺跡の新発見が相次ぎました。泣く泣く本紙に載せられないものも数しれず。ホームページで発掘速報も不定期掲載しているので、こちらもどうぞ。（今年も担当の小川）

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子 ロゴデザイン：石原幸